

JSA 神奈川支部通信

No. 7 July 2025 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：<https://jsa-kanagawa.jp>、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com

年会費 10800 円, 院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 00280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

この号の目次

- ◆ ノーベル平和賞受賞記念安田和也さん講演会の報告 後藤仁敏
- ◆ 「とりもどそう世界に平和を」を掲げ、第 15 回鶴見平和フェスティバルを開催 後藤仁敏
- ◆ 大学人と日本共産党のつどい「大学・学術の危機打開の展望を語る」の報告 後藤仁敏
- ◆ 「市民のための横浜市政を進める会」が各区・団体関係者会議を開催 後藤仁敏
- ◆ 日本近郊海域の熱蓄積量の変化とプラスチック汚染との関係？ 惣田昱夫
- ◆ 環境過敏症者のメモ 玉腰了三
- ◆ 全国革新懇第 44 回総会に参加して 後藤仁敏

ノーベル平和賞受賞記念 安田和也さん講演会の報告

後藤仁敏

2025 年 5 月 17 日、根岸線沿線九条の会連絡会が杉田劇場で「ノーベル平和賞受賞記念 安田和也さん講演会」を開催しました。あいにくの強い風雨、さらには倒木で根岸線が不通になるなか、111 名の皆さんが参加しました。

はじめに、コーラス「ひこう船」14 人による「かあさんの背中」ほか 5 曲の美しい合唱が会場に響き渡りました（図 1）。ついで、司会の成田さんが登場し、コーラスのお礼と和田征子さん（日本編水爆被害者団体協議会事務局次長）の紹介をしました。



図 1 コーラス「ひこう船」の合唱

和田征子さんの講演

和田さんは「原爆投下からノーベル平和賞まで」についてスライドを用いて、次のように講演しました（図 2）。

1945 年 8 月の広島・長崎への原爆投下以後、1946 年の第 1 回国連総会で原子兵器禁止の決議が採択され、核軍縮が国連の最優先目標とされましたが、1954 年 3 月米国のビキニ諸島での水爆実験で第五福竜丸が被爆し、1955 年 8 月に第 1 回原水爆禁止世界大会が開かれ、1956 年 8 月の第 2 回大会で日本被団協が結成されました。被団協の結成宣言では「私たちは自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意を誓い合った」とあります。



図 2 講演する和田征子さん

1970 年には核不拡散条約（NPT）が発効しましたが、2015 年の NPT 再検討会議で最終合意できず、核兵器禁止に向けた作業部会により、2017 年 7 月に核兵器禁止条約が 122 カ国の賛成で採択され、2021 年に署名 93、批准 70 カ国・地域で条約が発効しました。その前文には「核兵器の使用がもたらす壊滅的な人道上の帰結を深く憂慮し、その結果として核兵器が完全に除去されることが必要」とあります。

その後、昨年 12 月のオスロでのノーベル平和賞受賞式参加の動画が上映されました。和田さんのご子息が同行して撮影し、編集して作成されたものです。

ついで、港南台在住の被爆者佐藤美津紀さん（96 歳）が、16 歳で長崎で被爆した経験を語り、「戦争は二度と起こしてはいけないし、原爆を使ってもだめ」と訴えました（図 3）。

安田和也さんの講演

安田和也さん（都立第五福竜丸展示館学芸員）は「広島・長崎 80 年、戦後核被害をたどる第五福竜丸は核なき世界へと航海中です」について、スライドを道いて以下のように講演しました（図 4, 5）。

広島では約 32 万人が被爆年末まで約 14 万人が死亡した。長崎では約 24 万人が被爆し、試写は約 7.4 万人です。朝鮮、中国の居留者はじめ、オランダ、アメリカ、イギリスなどの捕虜も死亡した。

壊滅的破壊に、病院施設、医師も看護師も多数死傷、救護所が設けられるも医薬品も調達できなかった。船倉終結後、国際赤十字のマルセル・ジュノー博士は GHQ に 15 トンの医薬品を提供させ、広島で治療にあたった。ファーレル准将は 9 月 6 日に「原爆放射能の影響はない。すでに原爆症で死ぬべきものは死に、苦しんでいるものはいない」との声明を出し、原爆についての報道を規制した。日本政府は 10 月初めに戦時災害保護法による施設を閉鎖し、広島・長崎の被災者に手を差し伸べず、被爆者は自力で生きるしかなかったのです。

54 年 3 月の第五福竜丸被爆ビキニ事件により、実験禁止、原水爆反対の世論が高揚し、55 年 6 月の母親大会、7 月のラッセル＝アインシュタイン宣言、8 月の広島での最初の原水爆禁止世界大会、56 年長崎での第 2 回世界大会で、日本被団協が結成された。世論の高まりに 57 年 4 月、被爆者への最初の社会保障の法律が制定された。被爆者は国家補償に基づく援護法の制定を求めるも、国は国家補償を拒否、受忍論を展開する。

核開発による被ばく者とは、ウラン採掘、開発・製造段階、実験参加兵士・作業従事者、風下住民、核事故と多岐にわたり、最終的には地球規模の環境汚染となる。

広島・長崎後も原爆・核開発・実験は続けられ、1949 年にはソ連も原爆を保有し核軍拡競争は激化した。第五福竜丸は 1954 年 3 月 1 日、ビキニ諸島でブラボー水爆 15 メガトン（広島原爆の 1000 倍）により、死の灰が降り、乗組員の被ばく線量は 2000～3000 ミリシーベルトで、急性症状、ベータ線やけど、脱毛現象、白血球減少、造血機能障害を受け、半年後に無線長の久保山愛吉さんが死亡した。久保山さんは「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と語った。

放射能雨をあび、原子マグロなど汚染魚を捕獲した漁船は 992 隻にのぼった。全国に水爆実験の影響が広がり、実験反対、原水爆禁止の声が高まり、署名運動が広がり、年末には 2 000 万を超えた。

第五福竜丸は 2 年後に東京水産大学の練習船となったが、1967 年に廃船処分で夢の島に放置された。「沈めてよいか第五福竜丸」「原爆ドームを守った私たちの力でこの船を守ろう」との声により、1976 年 6 月に都立第五福竜丸展示館が開館した。

核実験は 2063 回、うち地上・大気圏爆発は 528 回行われた。アメリカはマーシャルやネバダで、実験従事者 56 万人、被爆兵士 40 万人が被ばくした。旧ソ連は、ゼミパラチンスク（カザフ）、ノバヤ＝ゼリム島、シベリアで、カザフスタンでは 132 万人が被ばくした。第五福竜丸は今なお、核



図 3 発言する佐藤美津紀さん



図 4 講演する安田和也さん

なき世界へと航行中である。

最後に、主催者を代表して私が「この天気、根岸線が止まるというなかでも参加された 100 人の皆さんに感謝します。大軍拡により憲法違反の「戦争する国」づくりが進められ、学術会議法や能動的サイバー防御法など悪法が強行されている一方で、国民が望む選択的夫婦別姓や企業・団体献金の禁止は進みません。参議院選挙で与党過半数割れを参議院でも実現し、国民が望む政治に転換しましょう」と主催者挨拶しました。

主催者挨拶

以下に、私の主催者挨拶の全文を掲載します。

本日は、根岸線沿線九条の会連絡会主催のノーベル平和賞受賞記念 安田和也さん講演会に、多くの方々ご参加くださり、まことにありがとうございました。と言いたかったのですが、今日のこの強い風雨、この会が始まる直前の午後 1 時に、根岸線で倒木があり、磯子一大船間が不通になるという不運に見舞われてしまいました。そのなかでもご参加いただいた皆様に、厚くお礼を申し上げます。

私どもは、JR 根岸線沿線にある 6 つの九条の会が、共同で講演会を開催している根岸線沿線九条の会連絡会と申します。森九条の会、磯子地域九条の会、洋光台九条の会、港南台 9 条の会、栄区九条の会、大船九条の会です。それぞれの会は小さいのでなかなか大きな集会はできない、昔はできていたがメンバーが少なくなってきたり難しくなった、ならばみんなで協力して講演会を開催しようと、連絡会を結成したのでした。なお、このうち磯子区内の森、磯子地域、洋光台の 3 つの会は、今後は、「磯子区九条の会」として一緒に活動することになったことを報告します。

根岸線沿線九条の会連絡会は、2015 年 7 月に小林節さん講演会を開催して以来、浜矩子さん、宇都宮健児さん、伊藤千尋さん、池内了（さとる）さん、田中優子さん、小出裕章さん、安田菜津紀さんの講演会など計 10 回の集会を開催してきました。今年は、日本原水爆被爆者団体協議会がノーベル平和賞を受賞したことを記念して、日本被団協事務局次長の和田征子さんと、原水爆禁止運動の原点となった第五福竜丸の展示館学芸員である安田和也さんの講演を企画しました。会場は、久しぶりに杉田劇場に帰っての講演会となりました。

今日は、コーラス「ひこう船」による合唱、和田さんの講演「原爆投下からノーベル平和賞まで」、港南台在住の被爆者・佐藤美津紀さんの発言、安田さんの「広島・長崎 80 年、戦後核被害をたどる」という素晴らしい講演まで、お聞きいただきました。いかがでしたでしょうか。ご感想やご意見を、アンケートにお書きくださるようお願いいたします。

この間、安倍政権、菅政権、岸田政権、そして石破政権へと内閣は変わりましたが、大軍拡が強行られ「戦争する国」づくりが進められています。それに反対する最後の砦となってきた日本学術会議を解体する法案が 5 月 13 日に衆議院で強行採決されました。6 人の歴代会長が「日本の学術の終わりの始まり」と叫び声をあげ、そのうちの一人、ノーベル物理学賞の梶田隆章前会長が参考人として内閣委員会で発言、何よりも日本学術会議が総会で毅然とした意思表明を行いました。その結果、立憲民主党、日本共産党、れいわ新選組だけでなく、国民民主党も、さらには日本保守党や参政党までもが反対しました。でも残念ながら、自民・公明・維新が賛成して可決されました。私の恩師も永く学術会議会員を部会長まで務めました。私も学者の一人として怒り狂っています。しかし、この採決は歴史に残る国会になったと思います。

まだ、参議院でのたたかいがあります。16 日、東京地裁が任命拒否の理由となった行政文書の開



図 5 講演する安田和也さん

示を命じる判決を出したことが国会審議に影響を与えることも期待されます。しかし、同じ日に能動的サイバー防御法案が参議院で可決されるなど、悪法の強行が続いています。悪法は強行されるのに、多くの野党が公約に掲げ、多くの国民が望んでいる選択的夫婦別姓や、企業・団体献金の禁止はなかなか実現しません。一方、15日に衆議院憲法審査会で自民党が改憲条文起草委員会の設置を提案しましたが、枝野幸男会長はじめ立憲民主党が反対して不発に終わったとのこと。これは衆議院で与党が過半数割れした成果です。

皆さん、学術会議法案強行採決の恨み、7月の参議院選挙で晴らそうではありませんか。衆議院だけでなく、参議院でも、自公だけでなく維新も含めて過半数割れを実現しようではありませんか。

根岸線沿線九条の会連絡会は、来年も11回目の新しい企画を考えたいと思いますので、ぜひご意見をお寄せくださり、ご参加くださるようお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。皆さん、ともに頑張りましょう。

「取り戻そう平和を世界に」を掲げ、第15回鶴見平和フェスティバルを開催

後藤仁敏

2025年5月25日、第15回鶴見平和フェスティバルが鶴見公会堂で開催され、350人が参加しました。

オープニングとして笑鼓楽の力強い太鼓演奏が会場にとどろきました(図1)。

ついで、呼びかけ人の私が「学術会議解体法案など悪法は強行されるのに、国民が願う消費税減税などは実現しない。参議院選挙で、自公を過半数割れにして、憲法を守る政治を取り戻そう」と訴えました(図2)。

スタンダップコメディアン松元ヒロさんは、まず、貧困ジャーナリズム大賞を受賞した鹿児島テレビ制作の「いのちのとりで」を紹介、憲法で保障された生存権が守られていない実態を告発しました。ついで、本の紹介では、ジェイソン・ヒッケル著『資本主義の次に来る世界』を解説。資本主義は地球環境を破壊している。成長することを追求しない、少ない方が豊かな世界を紹介しました。そして最後に、日本国憲法の前文を紹介する「憲法くん」を演じました。熱のこもったライブに大きな拍手が送られました(図3)。

ここで、集会に駆け付けた鶴見区出身のあさか由香さんが登場、参議院選挙に向けた思いを語りました(図4)。

休憩の後、南部合唱団の美しいコーラスが響きました。プログラムに入れられた「翼をください」「折り鶴」「沖縄を返せ」などが参加者も加わった大きな合唱となりました(図5)。

最後に、後藤明朗実行委員長が「一人ひとりが自分の言葉で戦争反対の声をあげよう。さまざまな平和活動に参加しよう」と行動提起し、大きな拍手で確認されました。鶴見から平和を世界に取り戻そうとの思いあふれる集会となりました。

私の開会の挨拶は以下のとおりです。



図1 笑鼓楽による太鼓演奏



図2 呼びかけ人の私の挨拶



図3 松元ヒロさんのライブ

皆さん、こんにちは。ただいまから第 15 回鶴見平和フェスティバルを開催します。私は、弁護士の前川雄司さん、汐田総合病院院長の宮澤由美さん、横浜勤労福祉協会理事長の野末浩之さんとともに、呼びかけ人を務めている鶴見大学の後藤と申します。退職して 11 年になりますが、鶴見平和フェスには 16 年前、まだ現役であった 2008 年の第 1 回から呼びかけ人を務めてきました。



図 4 浅賀さんの挨拶 図 5 南部合唱団のうたごえ

鶴見平和フェスティバルは、鶴見区内の九条の会の連絡会である「九条の会鶴見区交流センター」が中心となって実行委員会がつくられ、以前は毎年 5 月 3 日の憲法記念日に開催してきました。10 回までは、屋根のない鶴見駅西口モール街で開催してきたために、2018 年は雨により、やむなく中止になりました。2019 年からは雨でも開催できるここ鶴見公会堂で開催することにしました。しかし、2020 年から新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まり、2020 年から 3 年間開催できませんでしたが、2023 年からようやく再開でき、15 回目を迎えることができました。

憲法記念日には毎年多くの憲法集会があり、戦後 80 年になる今年も有明防災公園での中央集会には 3 万 8000 人が集まり、神奈川でも 4 月 28 日に憲法フォーラムの集会が県民センターホールで開催され、5 月 3 日には憲法会議が港南公会堂で憲法集会を成功させました。この集会もこれらの集会と連帯しています。

皆さん、日本国憲法が 1947 年 5 月に施行されて 78 年が経ちました。私は 1946 年 12 月生まれです。日本国憲法と同じ 78 歳になりました。去年は、イスラエル軍元兵士のダニー・ネフセタイさんと、学習院大学教授で憲法学者の青井未帆さんに講演していただきました。今年も、「笑鼓楽」の皆さんによる和太鼓の演奏に続き、スタンダップコメディアン松元ヒロさんの素晴らしいパフォーマンスをお願いしました。最後は、南部合唱団のうたごえ合唱です。皆さんも大きな声で合唱願います。五島明朗実行委員長からの挨拶もあります。

今日の鶴見平和フェスティバルは、何回もの実行委員会で討議に討議を重ねて準備されたものです。大勢の方々にチラシを配布していただき、チケットを販売していただきました。準備に当たられた方々、ご協力いただいた方々に深く感謝いたします。

この間、安倍政権、菅政権、岸田政権、そして石破政権へと内閣は変わりましたが、大軍拡が強行られ「戦争する国」づくりが進められています。それに反対する最後の砦となってきた日本学術会議を解体する法案が 5 月 13 日に衆議院で強行採決されました。6 人の歴代会長が「日本の学術の終わりの始まり」と叫び声をあげ、そのうちの一人、ノーベル物理学賞の梶田隆章前会長が参考人として内閣委員会で発言、何よりも日本学術会議が総会で毅然とした意思表示を行いました。その結果、立憲民主党、日本共産党、れいわ新選組だけでなく、国民民主党も、さらには日本保守党や参政党までもが反対しました。でも残念ながら、自民・公明・維新が賛成して可決されました。私の恩師も永く学術会議会員を部会長まで務めました。私も学者の一人として怒り狂っています。しかし、この採決は歴史に残る国会になったと思います。

まだ、参議院でのたたかいがあります。5 月 16 日に、東京地裁が任命拒否の理由となった行政文書の開示を命じる判決を出したことが国会審議に影響を与えることも期待されます。しかし、同じ日に能動的サイバー防御法案が参議院で可決されるなど、悪法の強行が続いています。悪法は強行されるのに、多くの野党が公約に掲げ、多くの国民が望んでいる選択的夫婦別姓や、裏金政治を断ち切るための企業・団体献金の禁止、物価高に苦しむ国民を救う消費税減税はなかなか実現し

ません。一方、15日に衆議院憲法審査会で自民党が改憲条文起草委員会の設置を提案しましたが、枝野幸男会長はじめ立憲民主党が反対して不発に終わったとのこと。また、「米は買ったことがない。売るほどある」との暴言で江藤農水大臣が更迭されたのも、衆議院で与党が過半数割れした大きな成果です。

皆さん、学術会議法案強行採決の恨み、悪法は強行されるのに国民の願いは無視されている悔しさ、7月の参議院選挙で晴らそうではありませんか。衆議院だけでなく参議院でも、自公だけでなく維新も含めて過半数割れを実現しようではありませんか。

本日は鶴見平和フェスへのご参加、まことにありがとうございました。どうか最後までしっかりお楽しみくださるようお願い申し上げます。

大学人と日本共産党のつどい「大学・学術の危機打開の展望を語る」の報告

後藤仁敏

2025年4月26日、全国学者・研究者日本共産党後援会が、「大学人と日本共産党のつどい」を開催し、都内の会場とオンライン合わせて300人が参加しました。

最初に、代表世話人の浜矩子さん（同志社大学名誉教授）が「今、太平洋の向こう側ではトランプ大統領による大学への攻撃があり、こちら側では学術会議への攻撃が強まっている。このタイミングでの本集会は意義深い」と挨拶しました。また、参議院議員の吉良よし子さんは、「大学の自治と学問の自由を守るため、参院選由を守るため、参院選で頑張りたい」と決意表明しました。



図1 シンポジウムでの丹羽・本田・光本・山添氏

次いで、シンポジウム「大学・学術の危機打開の展望を語る」が行なわれ、まず4氏がそれぞれ報告しました。本田由紀さん（東京大学大学院教授）は、「大学・学術をめぐる全体状況」について次のように話しました。日本学術会議法案による統制と評価の強化、財政面での削減と締め付け、大学間の分断と格差化が進められ、その結果、ブルシットジョブ（ばかげた仕事）が増えたと告発し、研究の低下、低迷を招き、その負担は国民にしわ寄せされ、生活困窮と格差、人口と知識・文化の維持再生産を阻害している。高等教育への公財政支出をOECD平均並みに増額し、「選択と集中」ではなく多様で自由な学術研究を推進し、給付型奨学金の拡大と貸与型に対する「免除職」の復活が必要だ。

光本滋さん（北海道大学大学院教授）は「人的資本論と大学教育の統制」について、大学の知と教育を全面的に統制しようとする根底には人間を「仕事に必要な能力」の集まりととらえる「人的資本論」があると指摘し、社会の分断を克服し、世界観の獲得と連帯の形成という大学教育の意義を確認し、学問の自由と大学の自治の擁護が課題だと述べました。

丹羽徹さん（龍谷大学教授）は「私大政策の課題」について、私立大学の淘汰政策でノートルダム女子大学の学生募集の停止に見られるように、地方の私大は存亡の危機にあると強調し、私大は日本の大学の8割を占めており、私大が淘汰されると地方での教育機会が奪われ、地方の文化拠点

が破壊され、地方の人口が流出するので、地方私大への支援が必要だと訴えました。

山添拓さん（当政策委員長）は、「大学・学術の危機打開の展望を語る」について、国会で焦点の学術会議法案をめぐる党の論戦を報告し、学術会議の独立性、自主性、自律性を奪う解体法案を廃案にしよう、そもそも巨額の軍事費が平和とくらしを脅かしており、いまこそ声をあげよう、と呼びかけました。

討論では、理研の野党留め問題などが報告されました。また、後援会が取り組んだ要求ウエブアンケートでは、研究費や研究時間などについての切実な願いが寄せられていることも報告されました。

最後に、事務局長の萩原伸次郎さん（横浜国立大学名誉教授）が、「今後も、参議院選挙などで日本共産党の議員を増やそう」と閉会挨拶しました。なお、このつどいの報告は「前衛」7月号に掲載されましたので、是非、お読みください。

「市民のための横浜市政を進める会」が各区・団体関係者会議を開催

後藤仁敏

2025年6月3日の横浜市長選に向けて、「市民のための横浜市政を進める会」が6月6日に横浜市開港記念会館で各区・団体関係者会議を開催し、72人が参加しました。

はじめに、岡田尚世話人代表が次のように挨拶しました。山中竹春市長は6月5日に市議会で大きな声で立候補表明し、夜には後援会の発起人会が開催され、経済界、医療界、労組代表が集まった。投票日は決まったが、どう市長選に臨むのか、議論し、選択し、行動しなければならない。

次いで、政村修事務局長が、この間の取り組み、政治資金報告、市長選をめぐる情勢、政策協定案、山中市政1期4年の評価について報告し、市長選に向けた基本姿勢について提案しました。そして、市民の声を聞き、施策に反映する姿勢を堅持して市政運営にあたることを前提に、引き続き山中市長を支持していく方向で必要な対策を進めるという基本姿勢について、各区・団体に持ち帰り、検討していただいた上で、6月下旬から7月2日までに、方針を確定するための会議を開催するとのことでした。

その後、各区・団体からそれぞれの取り組みについて報告がありました。途中で、山中市長が駆けつけ、「皆さんと共に歩んできたことが私の財産です。子育て政策の前進など、ここで立ち止まることは出来ないとの思いで、立候補表明しました」と挨拶し、大きな拍手を受けました（図1）。

発言では、市長選に向けての取り組みについての意見、大規模開発やデリバリー方式の給食などについての批判、敬老パス推進やノースドックへの米軍部隊配備反対の立場からの評価など、さまざまな報告や意見が出されました。

山中市長を応援する拠り所をどう確立できるかについても議論され、政村事務局長は前回のよう市政運営と政策の基本に関する協定書を結ぶことをめざすが、市長への提言についての受け入れという方法についてもありうると述べました。市長選をめぐる今後の動向に注目をお願いします。

この集会とその後の状況をふまえて「市民の市長をつくる会」としても、市長選に向けた方針を検討して対応して行きたいと考えています。皆様のご意見をお願いします。



図1 挨拶する山中竹春市長

プラスチック廃棄物による海洋汚染の概況については、前に報告した通りですが、もう少し現在の海洋汚染についてみてみましょう。

1. プラスチック廃棄物による海洋汚染

1950年代から海に流出したプラスチック廃棄物の量は1億5000万トン、沿岸等に打ち上げられている量は60%、残りの40%がプラスチックは軽いため海洋中に漂っていると推察されるが、いろんな推計データを見てみても44万トン程度と言われ、海洋中にあると推計されている4500万トンの1%にも満たない量となっています。99%の海洋中のゴミはどこに行ったのか、この消えたプラスチックは「行方不明プラスチック」と呼ばれています。これまでの調査では、そのまま海中に沈下している、劣化微細となり観測されていないのではないかと報告されています。

海洋中に浮遊するプラスチックを見てみましょう。最近のJAMSTECの報告では図1のようになっています。沿岸部では海洋表面から500mくらいに、特に50m前後に多く浮遊し、外洋では500-1000mの領域で多くなっています。水柱マイクロプ

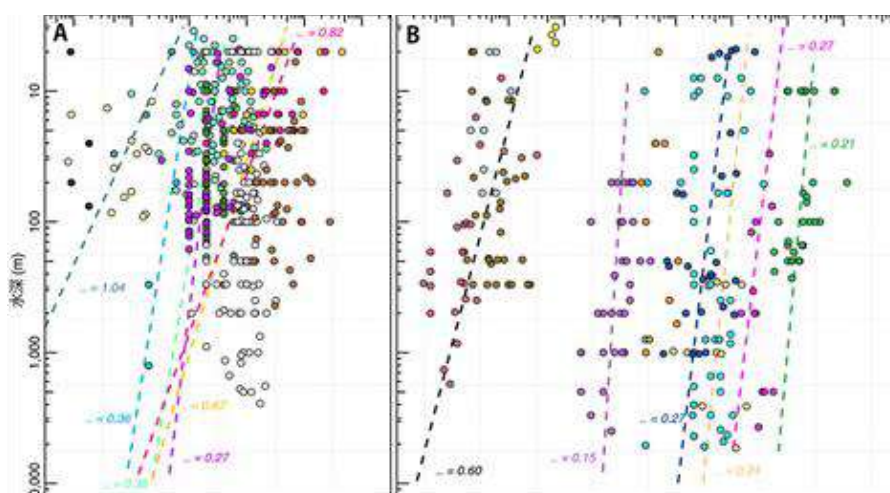


図1 沿岸域および沖合域におけるMPs濃度の深度分（JAMSTEC）

ラスチック（MPs）濃度の中央値は1立方mあたり205個と報告されています。沿岸域で汚染されたMPsが沈下しながら拡散沈降されていることがわかります。世界の研究者の関心の的になっている「行方不明プラスチック」さてどこに消えたのでしょうか？また本研究では重要な指摘があります。「海中に存在する自然由来の懸濁態有機炭素（POC）のうち、水柱中のMPsに由来する炭素は、無視できない割合を占めていることが分かりました。今回の研究では、海洋水柱のMPsに由来する炭素が、水柱中のPOC全体の平均で1.1%、深度2,000mでは最大5%を占めることが明らかになっています。このプラスチック由来の炭素（plastic-C）は、海洋微生物に取り込まれることで、硝化・脱窒といった物質循環プロセスに影響を与える可能性があります。しかし、こうした影響について未解明な点が多く、今後の研究が強く求められています。さらに、プラスチックの海洋流出量が今後も増加することを考慮すると、plastic-CがPOCの中で占める割合は将来的にさらに高まり、数百年から数千年のスケールで炭素隔離や生物地球化学的なサイクルに深刻な影響を及ぼすおそれがあります。」と指摘されています。海洋生物の変化減少が地球温暖化に大きな影響を与えつつあるのではないかと考えています。

2. 温暖化に寄与する海水温の変化

海洋中の熱の蓄積量の変化は温暖化と深くかかわっていることはよく知られています。現在の海洋中の熱蓄積量について、IPCC 第6次評価報告書(2021)では「地球温暖化により地球システムに蓄積した熱エネルギーの約90%が海洋に取り込まれており、海洋の貯熱量は、地球温暖化の進行を監視する上で重要な指標」となっています。海面から深さ2000mまでの貯熱量の1955年からの増加量を図2に示します。海洋貯熱量は1955年以降長期的に増加する傾向にあり、2024年の貯熱量は1955年から約 49×10^{22} J 増加しました。この間、海面から深さ2000mまでの平均水温は約 0.17°C 上昇(図3)しました。海洋貯熱量の増加速度は、1990年代半ばからはそれ以前と比べて大きくなっており、1993年の前後で比べると、1993年以前は10年あたり約 3.9×10^{22} J だったのが1993年以降は10年あたり約 10.2×10^{22} J となり、増加速度がおよそ2.6倍となっていることがわかります。また同じく「海洋表層(ここでは海面から深さ700m)と中層(ここでは深さ700mから2000m。海洋の平均深さは約4000m)で比較すると、それぞれの貯熱量の増加量は、約 32×10^{22} J、約 17×10^{22} J となり、地球温暖化の影響が海洋表層のみならずさらに深い層まで及んでいることも分かります。海洋中の貯熱量が急速に増加していることから、地球温暖化が急速に進んでいることがみて取れます。

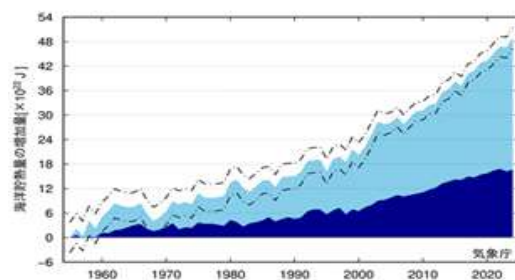


図2 海洋貯熱量の1955年からの増加量

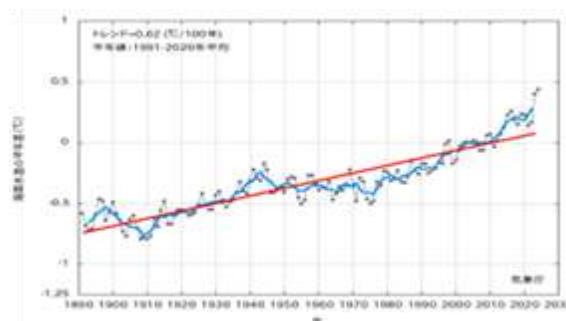


図3 海面水温(全球平均)の推移

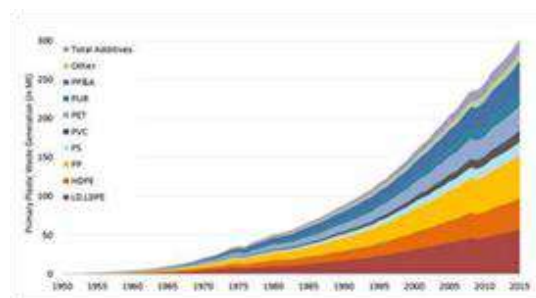


図4 プラスチックの生産量の変化

図4,5にプラスチックの生産量と、海洋中のマイクロプラスチックの変化を示しました。

図2と図4を比較するとプラスチック生産量の増加傾向と、海洋中の蓄熱量の増加傾向がよく似ていることがわかります。また図5の海洋中のプラスチックごみの量も比例していることがみて取れます。

次に世界の海洋中の温度分布を図6に示します。北緯30度から南緯30度の範囲で温度が高いことがわかります。赤道直下では海水温が30度となることも報告されています。「日本近海の海面水温の年平均差の推移は1880年から2024年までの期間において100年あたり 0.91°C の上昇(世界の年平均の経年変化)となっており、海面水温の上昇率は1891年から2024年までの変化率は100年あたり 0.62°C とこれよりも小さくなっています。日本近海の2023年までの約100年間にわたる平均海面水温の上昇率は、 $+1.28^{\circ}\text{C}/100$ 年。この上昇率は、世界全体の平均海面水温(図3)の上昇

率（+ 0.61℃/100 年）よりも大きく、日本の気温上昇率（+1.35℃/100 年）と同程度である（図 3）」と報告されています。海洋温度分布図と海洋中のプラスチック汚染図を重ねてみると北緯 30 度と南緯 30 度が重なります。また図 6 のようにこの地域は日本近海も含まれプラスチックの増加と気温の上昇も並行して増加していることがわかります。次に日本近海の海洋プラスチックと海水温上昇の関係を検討します。

3. 日本近海のプラスチック汚染

図 7 のように日本近海の海水温は年々上昇しており図 8 の 2014 年と 2024 年度の変化を見てもはっきり変化がみられます。先に、日本近海の 2023 年までの約 100 年間にわたる平均海面水温の上昇率は、+1.28℃/100 年。この上昇率は、世界全体の平均海面水温の上昇率（+ 0.61℃/100 年）よりも大きく、日本の気温の上昇率（+1.35℃/100 年）と同程度です。この差は何によるか。海水温を上げる要因ですが、原子力発電所から出る廃熱（1000 億トン/年、全国の河川流量の 4 分の 1）、これもばかにはできません。他に災害時に流出する廃木材、重油等の油の汚染等もあります。これまでの見解では赤道で暖められた黒潮等の流れによると考えられますが、世界の海洋の温度分布を見ても日本近海の海水温（7 月）をみても単純にそれだけで日本近海と温度差が生まれるのか疑問です。まず日本近海のプラスチックによる汚染（存在量図 9）から解るように「マイクロプラスチックの存在量は他地域に比べ多い、

日本近海にプラスチックが多い理由は図 10 のように黒潮の流れが北からの親潮の流れがぶつかる「黒潮続流再循環域」に位置します。プラスチックが多く集積し「プラスチックスープの海」と言われる所以です。この周辺は魚類等の資源も多いところですが、プラスチック汚染の影響を多く受けつつある地域とも言えます。このスポットは北緯 30 度周辺でもあります。それではこの域に流れ着いているプラスチック類はどこから来るのでしょうか。もちろん多く生産し廃棄している日本の河川からのものも多くありますが、東南アジアの国々からのものも多く

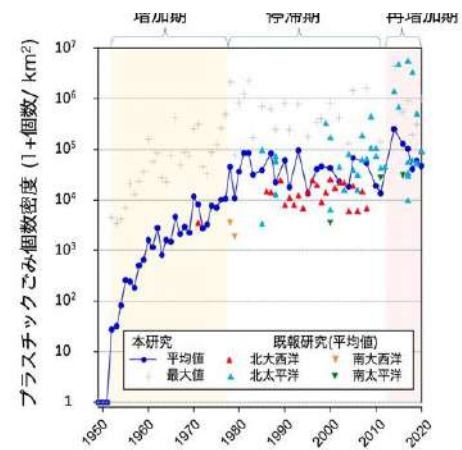


図 5 プラスチックごみの個数密度
(1+個数/Km²)

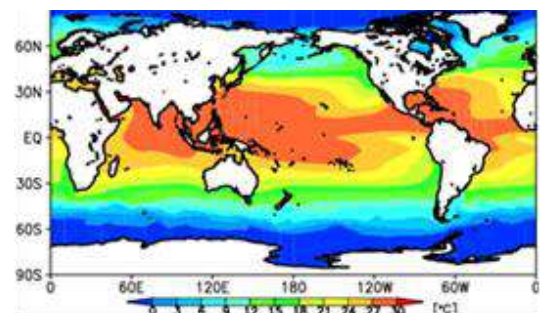


図 6 世界の海洋温度の分布

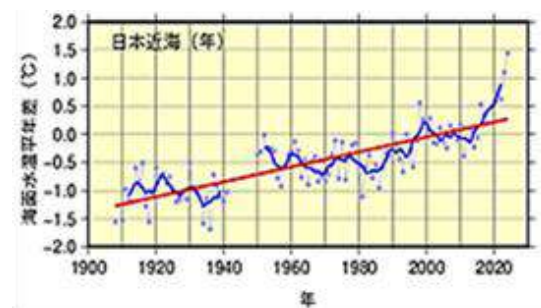


図 7 日本の海洋温度の変化（気象庁）

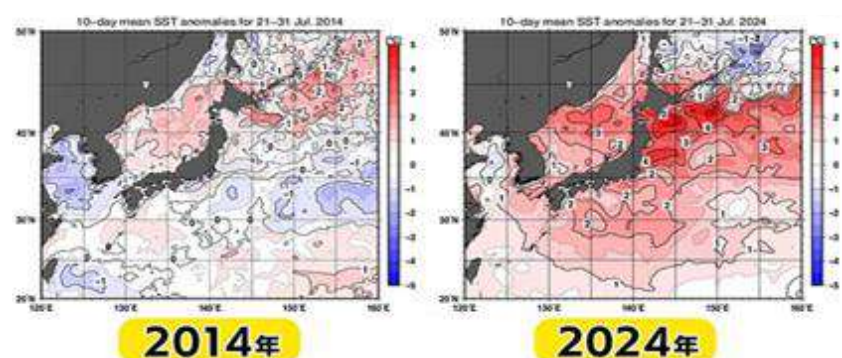


図 8 日本近海の海水温の変化（7 月）

みられます。この区域は日本の EEZ なので海洋資源の保護対策からも重要な地域です。この地域の海洋資源の保護するうえで東南アジア諸国のプラスチック対策への援助も重要となっています。

温暖化との関係です。最近ハワイ大学の研究者グループは「廃プラスチックが日射や水中での劣化でメタン（28 倍）やエチレンガス（3.8 倍）が放出され温暖化を加速させている、温暖化対策に海洋中の廃プラスチック対策が必要」と報告しています。浮遊するプラスチックがマイクロプラスチックになり海洋中に混じるのは 3 年（バロセロナ大学）、この 3 年の繰り返しで海洋の MPs が増加しているものと思われます。プラスチックが小さくなっていく過程で地球温暖化ガスと言われるメタン（28 倍）やエチレンガス（3.8 倍）を発生させていますので、炭酸ガスによる温暖化と合わせた影響が出ていると考えられます。

MPs は海洋生物の生育不良や死滅さ

せ、また海洋中からの放熱を阻害していることも報告されています。このことから日本近海のプラスチック汚染は日本近海の海水温の上昇に寄与していることは推測できます。また毎年 800 万 t（480 万 t～1270 万 t の平均）のプラスチックが海洋中に流入しているといわれていますので、特に東アジア地域での廃プラスチック減量化対策は地球温暖化を加速さないための課題といえます。

海洋中の廃プラスチック対策は、1) 物理的毒性、2) 化学的毒性に加え、3) 温暖化ガスの対策としても重要な課題となっています。

4. プラスチック対策—2つの勘違い

プラスチック対策 2つの勘違いとは。1つは、プラスチックは使い捨ての商品という勘違い（回収物でない）、2つ目は、プラスチックは小さくなるときれいになってしまっている。プラスチックは最終的には何になるか、分解され炭酸ガスと水になるという神話？便利さゆえの勘違いがあるように思えます。レジ袋などのような薄いフィルム状のプラスチックは便利ですが回収しにくい。先進国ドイツでもこのような廃棄物の回収は難しいといっていました。ではどうするのか、買い物袋などを使い、フィルムプラスチックの使用量を減らすことが重要となります。生分解性プラスチックでと考えられますが、まだ完全に自然分解するプラスチックはないためつなぎなどが分解してもマイクロプラスチックとして残ります。

プラスチック製品の使用は安く便利ですが、これらの使用は安上がりの生活を強いられているような気がします。豊かさとは何かもう一度立ち止まって考える必要があります。プラスチック削減が進まない要因は 1) 軽くて丈夫、利便性がある 2) 価格が安い、3) 大量生産が容易である 4) 酸やアルカリに強いなどの性質があり、使い勝手がいいということにあります。廃

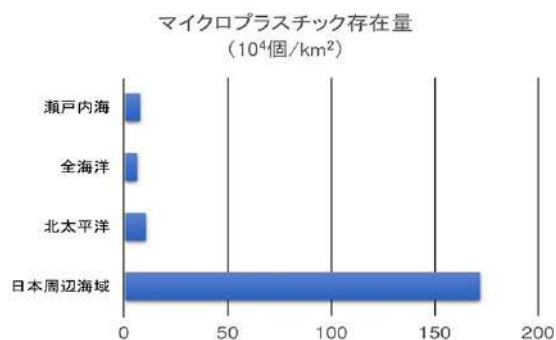


図 9 MPs の存在量の日本周辺海域と世界の海の平均値

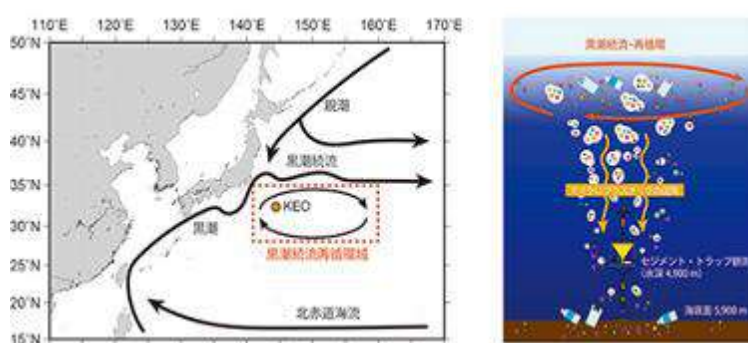


図 10 日本近海の潮流とプラスチックスープの海域（図版：JAMSTEC）

プラの対策は個人の意識だけでは解決しない問題といえます。災害時に出るごみ対策が無いことです。災害時のごみの量はとてつもなく多い。

本格的対策を進めるには 1) 拡大生産者責任制 (OECD) で生産者に責任を持ってもらうこと。2) 生産から廃棄までの経済システムを作ること。3) 化学物質の規制-ポリマーも含め、何よりドイツ並みに日本でも所有権から使用権へ変更すること、変更すると廃棄物の回収が容易となり、拡大生産者責任制を推し進めることにつながります。脳の中から MPs が見つかり、健康被害が出つつある今日、使用権への変更は日本での廃棄プラスチック解決の早道だと考えます。

参考および引用文献

- 1) 日本学術会議、健康生活科学委員会環境学委員会合同環境リスク分科会、：マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態健康影響研究の必要性とプラスチックガバナンス、2020 年
- 2) 長谷川一幸他：海洋マイクロプラスチック汚染問題の現状、海生研報 27 号、2022
- 3) 高田秀重：マイクロプラスチック汚染の現状-国際動向及び対策、廃棄物資源循環学会誌、No4. 2018
- 4) WWFjapan：海洋プラスチック問題について、2018
- 5) 環境省、廃棄物：一般廃棄物の排出及び処理状況（令和元年度）、2021
- 6) M・カンペン他、Plastic shards permeate human brains, ネイチャー・メディシン、2025/2/3
- 7) NHK クローズアップ現代、2024/2/4
- 8) 各種新聞や CNN ニュース、インターネット記事等
- 9) 高田秀重：プラスチックによる生体影響と予防的対策、日本科学者会議、No2, 2023
- 10) ダイオキシシン・環境ホルモン対策国民会議：プラスチック条約 INC5 報告、2 月、2025
- 11) 保坂直紀：海洋プラスチック、角川新書、2021
- 12) 水野玲子：プラスチックの逆襲、高文研、2025
- 13) シャルタル・ブラモンドン（服部雄一郎訳）：プラスチック・フリー生活、NHK 出版、2019
- 14) 磯部篤彦：海洋プラスチックごみ問題の真実、科学同人、2021
- 15) 朝日新聞、2025/6/7 朝刊

環境過敏症者のメモ

玉腰了三

化学物質や電磁波などの複合汚染による環境過敏症の発症者はまさにサバイバルな生活を余儀なくされています。人類史上、これほどの化学物質と人工の電磁波にあふれる地球環境はありません。

日本で化学物質過敏症の研究を切り開いてきた医師の次の言葉に私はいつも励まされています。

「将来的には、医師は患者中心医療に return すべきで、患者の訴えを良く聞けという運動が開始され、活発になるでしょう。国民の健康は DEF medicine: Demonstration of Environmental Factors が如何に大切かを T. Randolphe と 1990 年代の始めに研究して来た私として、さらに 頑張らねばと思って居ります」。

○環境過敏症の現状と問題解決の基本的視点

○環境過敏者は微量な化学物質や電磁波に反応し体調を崩す。

○安全・安心な居場所がない。外出制限。引きこもり。

○資本主義の問題をさけて通るわけにはいかない。

「環境問題に頭を突っ込むと、その日から国と企業を敵に回すことになります」とある医師は述べている。

環境汚染問題の解決には、(1)汚染者負担の原則、(2)予防原則、(3)国民・住民の参加、(4)徹底した情報公開などの基本的視点が必要である。しかし、日本を含め世界の多くの国と企業はこの基本的な視点・立場に立ちきれず、問題解決を先延ばしにしている。背景の一つに「資本主義」がかかえる深刻で本質的な矛盾がある。

○地球規模の環境問題（地球的規模の視点）

「大洪水よ、わが亡きあとに來たれ！」これがすべての資本家および資本家国家のスローガンである。それだから、資本は、社会によって強制されるのでなければ、労働者の健康と寿命にたいし、なんらの顧慮も払わない」（『資本論』第8章 労働日』 マルクス）

覇権主義と資本主義が結びついた諸国が引き起こす戦争を止めることができない国際社会。核兵器使用の現実性。原発の存続。温暖化等々。

○自然の復讐

「人間は、自分が起こす変化によって自然を自分の目的のために利用し、自然を支配する。・・・しかし、われわれ人間が自然にたいしてかちえた勝利にあまりに得意になりすぎないようにしよう。そうした勝利のたびごとに、自然はわれわれに復讐するのである。なるほど、どの勝利も、最初はわれわれの見込んだとおりの諸結果をもたらす。しかし、二次的また三次的には、まったく違った・予想もしなかった効果を生み、これが往々にしてあの最初の諸結果を帳消しにしてしまうことさえるのである。・・・」

この（自然の復讐）規制を実施するためには、しかし、ただの認識以上のものが需要である。そのためには、われわれは、われわれのこれまでの生産のしかたと、それとともにわれわれのこんちの社会体制全体を完全に変革することが必要である」（『自然の弁証法』 エンゲルス）

この「自然の復讐」を防止するためには、人間の生産活動が自然及び社会に及ぼす遠い将来の影響まで含めた規制を実現することが必要である。

○草の根から地球レベルでの地球的環境破壊を阻止する活動と連帯

○患者に寄り添う自然の復讐を止揚する科学の発展を心から願わずにはいられません。

全国革新懇第44回総会に参加して

後藤仁敏

2025年5月24日、平和・民主・革新の日本をめざす全国の会（全国革新懇）第44回総会が、「日本をダメにした自民党政治にさよならを！『市民と野党の共闘』のあらたな発展と『3つの共同目標』の共闘前身で」を掲げて、御茶ノ水の全労連会館で開催され、会場に131人、オンラインで22人、計153人が参加しました。

革新懇の会員になって17年になるのに、総会に参加するのは初めてでした。昨年は、午前はかながわ市民連絡会全体会と、午後は日本科学者会議神奈川支部大会と重なり、



図1 田村智子さんの特別報告（赤旗より）

参加できませんでした。今年も日本科学者会議全国大会と重なっており、昨年までなら全国幹事として参加しなければならなかったのですが、参加できないところでした。

総会は、まず代表世話人で沖縄大学名誉教授の小林武さんの開会挨拶で始まりました。小林さんは拙著『図説 歯からみた生物の進化』の書評を「全国革新懇ニュース」に「歯は全身の支柱、国でいえば憲法のようなもの」と書いてくださった方で、いつも代表世話人会で、憲法学者と沖縄の立場からの確かな情勢分析を述べられています。

小林さんの紹介で、座長に指名されたのは、農民運動全国連合会会長の長谷川敏郎さんと私でした。打ち合わせで、私は午前中の座長を務めました。まず、来賓挨拶として、市民連合運営委員・事務局の福山真劫さんと学問と表現の自由を守る会の東京大学名誉教授の大沢真理さんに発言をお願いしました。福山さんはいつも市民連合の全国市民意見交換会で事務局報告をされており、いつものように zoom で、「参議院選挙では野党は共闘すれば勝てる。1 人区と 2 人区での候補者 1 本化を実現したい。政権交代を実現するためにともに全力を尽くそう」と呼びかけました。大沢さんは、日本学術会議解体法案をめぐる国会でのたたかいを紹介し、日本の学術を廃案にするよりないと訴えました。

ついで、代表世話人で事務室長の小田川義和さんが「報告と提案、会計報告」をしました。日米安保体制への疑問の広がり、消費税減税の実現可能性の高まりのもと、今こそ政治を変える統一戦線をめざす革新懇の出番だ」と呼びかけました。

ここから討論に入り、まず、4 人が特別報告をしました。東京革新懇事務局長の今井文夫さんは間近に迫った東京都議選で「さよなら自民党」実現への道を切り開く決意を述べました。日本婦人団体連合会会長の小畑雅子さんは選択的夫婦別姓の実現など、日本社会のジェンダー不平等の是正を求める運動を紹介しました。大阪・かどま革新懇事務局長の亀井淳さんは今年 4 月に結成された新しい革新懇の決意を述べました。

最後に、日本共産党中央委員会幹部会委員長の田村智子さんが「消費税減税は大企業・富裕層の応分負担で実現できる。アメリカいいなりの政治をやめて、対等・平等・友好の新しい日米関係を築こう。日本共産党の躍進で革新懇運動を前進させよう」と訴え、大きな拍手を受けました（図 1）。



図 2 田村さんと神奈川の参加者

お昼休みに、神奈川の参加者が田村さんを囲んで記念写真を撮りました（図 2）。午後は、1 人 6 分で計 26 人がそれぞれの地域、分野での革新懇の活動を報告し、「報告と提案」を肉づけました。私は、ベル係を担当しましたが、スマホの使用法が分からず、戸惑うこともありましたが、なんとか最後まで係をまっとうしました。最後から 2 番目に、わが神奈川革新懇を代表して斉田道夫事務局長が、かながわ市民連絡会、ノースドック米軍部隊配備反対院内集会、神奈川での革新懇づくりについて報告しました。

報告と提案、会計報告を確認した後、代表世話人の矢野裕さんが役員を提案し、拍手で承認されました。私も引き続き代表世話人を務めることになりました。最後に、代表世話人の池田香代子さんが「ガザでの虐殺、兵庫県知事やトランプ大統領を見て、これまで私たちは世の中がよくなるものと思っていたが、そうっていない。21 世紀にこんな光景を見るとは」と閉会挨拶しました。この総会に参加した皆さんは、こんな光景をいつまでも許さないために、奮闘しようと思いを合っただけではないかと思いました。

初めて参加した全国革新懇総会、いろいろな体験ができ、楽しい一日となりました。

行事案内

- ☆6月19日(木) 18:30～ **6・19 国会議員会館前行動** 場所：衆議院第2議員会館前を中心に（国会図書館方面も御利用下さい） 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲N0！全国市民アクション
- ☆6月20日(金) 12:45～15:00 **戦争への道を歩まないために 武力で平和は守れない～「抑止力神話」「同盟神話」の危うさ** 講師：額満厚さん（明治大学特任教授、全国革新懇代表世話人） 会場：ぴおシティ6階青少年交流活動スペース第1研修室（桜木町駅徒歩3分） 資料代500円、大学生以下無料 主催：神奈川2区市民連絡会 問合せ：090-8818-1431（高梨）
- ☆6月21日(土) 9:00～11:45 **かながわ市民連絡会 6月全体会** zoom会議（URLはMLでお知らせします） 議題：各区の報告、意見交換、参議院選挙など 問合せ：080-3402-3360（内藤繁）
- ☆6月21日(土) 10:30～ **衆議院議員早稲田ゆきタウンミーティング in あーすぱらざ大会議室**（定員40名、本郷台駅徒歩3分） 入場無料 申込み：電話：0467-24-0573、Fax：0467-24-0575、mail：info(at)waseda-yuki.jpへ名前、住所、電話番号を。主催：早稲田ゆき事務所
- ☆6月21日(土) 13:00～16:20 **第37回憲法フェスティバル 戦後80年と憲法～これまでとこれから** 音楽：コドモウインズ 講演：浅倉むつ子（早稲田大学名誉教授）「女性の権利を国際基準に～憲法と条約を活用しよう！」、山極壽一（総合地球環境学研究所所長）「人間の本来から平和の道を探る」 会場：日経ホール（地下鉄大手町駅C2b出口または竹橋駅4番出口） Youtube配信あり 参加費：前売1800円、当日2300円、障害者1000円（付添い1名無料）、学生以下無料 主催：実行委員会 申込み・問合せ：03-3511-5749
- ☆6月21日(土) 13:30～15:30 **第13回震災復興支援コンサート in ふじさわ** 会場：藤沢市民会館第一展示集会ホール（藤沢駅南口徒歩10分） 合唱、朗読、演奏など 当日券500円、学生以下無料 主催：実行委員会 問合せ：080-3018-8191（荒井さん）
- ☆6月21日(土) 13:30～16:30 **『治安維持法ー100年ー「新しい戦中」にしないために』発刊記念 治安維持法とは何だったのか その歴史と現在を考える** 会場：全国教育文化会館エデュカス地下ホール（地下鉄麹町駅5番出口徒歩2分） 参加費700円 記念講演：荻野富士夫さん（小樽商科大学名誉教授） 高校授業実践報告：伊藤和彦さん（名古屋市立高校教員） 教科書分析：河合美喜夫さん（元都立高校教員）「治安維持法は教科書にどう記述されているか」 主催：歴史教育者協議会、大月書店 問合せ：03-3947-5701（歴教協）
- ☆6月21日(土) 14:00～16:30 **講演会「沖縄基地と環境破壊 平和の危機は差別から」** 会場：厚木シェイププラザ6階サイエンスホール250（小田急線本厚木駅徒歩1分） 講師：奥間正則（元土木技術者） 主催：CNピースあつぎ 問合せ：080-1172-1094（山本さん）
- ☆6月22日(日) 13:30～15:30 **はたらく女性の神奈川県集会** 会場：横浜市従会館4階（桜木町駅徒歩12分） 記念講演：栗原千鶴（ジャーナリスト）「戒厳令を止めた韓国女性たちの闘い」 10時～ 韓国非正規女性から学ぶ ランチタイム（申込み） 主催：神奈川労連女性センター 申込み先：voice(at)kanagawa-rouren.jp
- ☆6月25日(水) 14:00～15:00 **大軍拡・大増税N0!スタンディング・署名行動** 場所：港南台駅前（雨天の場合は中止） 主催：大軍拡・大増税ストップ栄区アクション（新日本婦人の会栄支部、栄区九条の会、医療生協かながわ栄北支部・南支部、年金者組合栄支部ほか） 問合せ：090-1258-4710（筒井）
- ☆6月26日(木) 18:20～ **神奈川安保連続講座：安保支持が6割その真相を参加者が学び深掘する 第2回：なぜ日本はアメリカのいいなりなのか** 会場：横浜市健康福祉総合センター（桜木町駅徒歩2分） 参加費500円 講師：川田忠明（日本平和委員会常任理事） 主催：実行委員会 問合せ：045-231-0103
- ☆6月27日(金) 12:30～15:00 **第11回懐かしの昭和歌謡を歌いましょう** 会場：クラジャ（カフェ）（小田急線藤沢本町駅徒歩7分） 会費1500円（ランチ・ドリンク付） 定員25人 主催：年金者組合藤沢支部 問合せ：070-1315-3501（新井さん）
- ☆6月27日(金) 13:00～16:00 **第28回ピースフェスタ港南** 会場：港南区ひまわりの郷ホール（京急線・地下鉄線大岡駅徒歩5分） 講演者：羽場久美子さん（青山学院大学名誉教授）「戦後80年とアメリカの衰退 トランプ大統領は何をしようとしているか」 ジャズ演奏（4 Piece for Peace）童謡・唱歌（ももたろう） 協力券：大人1000円、小中高生500円 主催：実行委員会 問合せ：ユーコープ横浜南2エリア事務所（045-721-2526）
- ☆6月28日(土) 14:00～16:45 **第9回九条の会全国交流集会（オンライン）** 目的：憲法9条などを巡る最近の情勢の認識の交換と、各地の活動を交流し、今後の活動の糧とする。集会形式：zoomを使用してのオンライン集会 参加対象：各地・各分野の九条の会、呼びかけ人、世話人、事務局、運営スタッフなど。主催：九条の会事務局 参加希望の方は、次の申込フォームへアクセスし、必要事項の入力をお願いします。申込フォーム：https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeY6Tf2pD90DTrjuXRkeXrs9iqim8TqCgJ2_LjAdtH9oleg/viewform?usp=header QRコードは右。参加される方で、交流集会当日に資料の共有を希望される方は、九条の会事務局の次のメールアドレスまで、データをお送りください。 9jyonokaijimukyoku@gmail.com なお、このアドレスは、資料受取専用のアドレスです。このアドレスへお問い合わせ等いただいてもご回答いたしかねますので、ご了承ください。申込フォームで



- 参加申し込みされた方には、登録いただいたメールアドレス宛に、①交流集会当日の zoom の URL 等と、②みなさまからお送りいただいた資料を共有する URL をご案内いたします。問合せ：03-3221-5075
- ☆6月29日(日)13:30～15:30 **第13回千葉サイエンスカフェ** JSA 千葉支部では、科学の普及を目指す企画として、話題に興味がある子どもから大人までを対象に、一般公開で不定期ですが「サイエンスカフェ」という談話会を市民活動支援センター（千葉市文化センター9階）でこれまでに12回開催してきました。次回は6月29日(日)13:30～から大久保紀雄さんを話題提供者として開催を予定しております。皆様、ふるってご参加ください。対象：話題に興味がある子どもから大人まで。講演テーマ：ライブニッツとスピノザー17・18世紀の哲学 講師：大久保紀雄さん 会場：千葉市文化センター9階(市民活動支援センター談話室、千葉中央ツインビル2号館、JR 総武線千葉駅、京成千葉線千葉中央駅徒歩10分：千葉都市モノレール 葭川公園駅徒歩3分) オンライン参加の場合は URL：<https://meet.jit.si/JSAChibaStaffmeeting> にご接続下さい。主催：日本科学者会議千葉支部
- ☆6月29日(日)14:00～17:00 **連続シンポジウム「NHKと放送メディアのこれから」第2回 NHKはそうすれば政権から自立できるのか～放送の独立行政委員会制度を考える** 会場：立教大学池袋キャンパス7号館102教室（池袋駅西口徒歩10分） 資料代500円 ネット配信（<https://youtube.com/live/pAuTaVbFbFM?feature=share>） 主催：立教大学社会学部メディア社会学科・砂川ゼミ/市民とともに歩み自立したNHK会長を求める会 問合せ：小滝一志（090-8056-4161）
- ☆6月29日(日)14:00～ **戦争いらない！NO WAR！パレード** 場所：JR 桜木町駅前で集会 14時30分、パレード出発 13時～ 平和の鳩モチーフ作りワークショップ 平和をテーマにした「絵本&音楽の時間」 主催：ピースかながわ 問合せ：[peacekanagawa2025\(at\)gmail.com](mailto:peacekanagawa2025(at)gmail.com)
- ☆6月29日(日)14:00～16:30 **第98回学習会「軍隊をもたない国コスタリカ訪問報告～平和と民主主義の作り方** 会場：宮前市民館第4会議室 資料代500円 主催：宮前九条の会（<https://miyamae9.web.fc2.com/>） 連絡先：044-855-8896（若原）
- ☆7月5日(土)12:50～14:30 **ずし平和デー事前企画「気候変動から人権・平和を考える」** 会場：逗子市民交流センター2階会議室（京急逗子・葉山駅徒歩2分） 講師：山本大貴（record 1.5 代表） 参加費700円、高校生以下無料 事前予約制 当日参加は先着順 定員90人 主催：逗子・葉山九条の会 問合せ：046-878-6044（冨塚さん）
- ☆7月6日(日)14:00～16:00 **第98回草の根歯科勉強会 日本の今とこれからの近現代史に学ぶ 「戦前」は軍拡から始まる** 講師：山田朗先生（明治大学平和教育登戸研究所資料館館長、文学部教授） 会場：梨の木カフェ（10名まで、JR 水道橋駅東口徒歩5分）と zoom 併用 要申込 参加費無料（希望者はコーヒー代500円） 主催：草の根歯科研究会 問合せ：[yayoiokada\(at\)pcsu.mfnet.ne.jp](mailto:yayoiokada(at)pcsu.mfnet.ne.jp)（岡田弥生）
- ☆7月11日(金)12:30～13:30 **横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備撤回を求める署名活動** 場所：JR 東神奈川駅東口デッキ 呼びかけ：横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会（045-231-0103）
- ☆8月2日(土)13:00～ **神奈川県弁護士会・日本弁護士連合会第67回人権擁護大会プレシンポ 映画「戦雲」の鑑賞と三上智恵監督のお話を聞く会** 会場：神奈川県弁護士会館5階（みなとみらい線日本大通り駅1番出口徒歩1分） 主催：神奈川県弁護士会 共催：日本弁護士連合会、関東弁護士連合会（予定） 連絡先：045-211-7705
- ☆8月11日(月・祝)14:00～ **日本とアジアの平和をつなぐ日中戦争終結から80周年のつどい** 会場：「ココネリ」大ホール（練馬駅徒歩1分） 参加費：2000円（大学生・高校生1000円、小中学生以下無料） 一部：講演・島田正彦氏（小説家） 二部：交流会（沖縄三線演奏、変面、大挙拳表演、東京朝鮮中高級学校舞踊部、再生の大地合唱団など出演予定） 主催：実行委員会 問合せ：03-3261-0433（日中友好協会東京都連合会）

JSA 神奈川支部幹事会・発送作業

日時：7月15日(火)14時30分～15時30分、発送作業は14時30分、幹事会は15時から。
 会場：かながわ総研事務所（横浜市中区不老町1-6-9 第1HBビル5階、1階に「牡丹飯店」という中華料理屋のあるビルの5階、JR 関内駅西口徒歩3分）。
 連絡先：飯岡ひろし（携帯：080-1987-0994、E-mail：[jsa.kanagawa\(at\)gmail.com](mailto:jsa.kanagawa(at)gmail.com)）

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろの発送です。

送り先：後藤仁敏（E-mail：[goto\(at\)kd5.so-net.ne.jp](mailto:goto(at)kd5.so-net.ne.jp)、Fax：045-894-1052）